

『気づき』を促す授業の工夫

大矢裕子 高杉廣張 持田玲子

1 主題設定の理由

中学校での新学習指導要領実施を来年度にひかえ、本校英語科でも研究主題を再検討してきた。これまでの研究経過の詳細については後述するが、昨年度までメインテーマとしてきた『伝える力』を高めるという視点は今後も大切にしていきたい。英語は他とのコミュニケーションをとるための道具、手段であり、『伝える力』を高めることは言語学習において必須であると考えられる。

今年度は、研究主題を「『気づき』を促す授業の工夫」とし、研究を進めていきたいと思う。

英語は学校教育の中でのみ完成されるものではなく、場合によっては、生涯を通して接していくものである。新学習指導要領の解説（第1章 総説 2 外国語科改訂の趣旨）には次のように記されている。

（前略）併せて、「読むこと」、「書くこと」の指導の充実を図ることにより、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の四つの領域をバランスよく指導し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培う。

生涯を通して英語を学びつづけていくためには、英語を使う楽しさや世界観が広がる喜びなどを経験することが大事であると思う。そのために私たち教師ができることは、生徒から「ああ、そうか!」「わかった!」「こうすれば良いんだ!」という声を引き出すような授業をつくることである。生徒が試行錯誤し、様々なことに気づける授業をつくることは、生徒を自立した英語学習者として育てていくことにつながるものと信じている。

今までに学んできたことをもとに、「自分の伝えたいことを、より相手に分かりやすく伝えるためにはどうしたら良いのか」を生徒自身が思考していくとき、生徒の中には様々な『気づき』が生まれるはずである。本校英語科では、その『気づき』の繰り返しこそが、生徒の「自ら学ぶ姿勢」を養うものであると考え、『気づき』を促すための教師の役割や、学習課題などについて研究を進めていくために本研究主題を設定した。研究実践と新学習指導要領のねらいとのさらなる接点を探りながら、教科内の議論と授業実践を積み重ねていきたい。

なお、『気づき』には、異文化理解的な『気づき』や、音声的な『気づき』など様々なものがあるが、本校英語科のいう『気づき』とは、

聞いたり読んだりしながら身につけた知識を、書いたり話したりするときに用いることができると認識すること。

である。

2 全体研究との関わり

今年度からスタートする全体研究の主題は、「自ら問う力を育む授業の創造 ～思考力・判断力・表現力等の育成を目指して～」である。授業において、教師は様々な役割を果たして、生徒たちの学びを支援する。しかし、いずれは教師がつかなくても生徒が自分で課題を解決することができるように育ててもらいたいという願いがある。いわば生徒が「知的に自立する」ことを目指して授業づくりをしていると言えるのではないだろうか。何か課題に直面したとき、解決に向かうために次にどのようなことを考えればよいのか試行錯誤しながらも考えていけるようになってほしいと願う。その原動力となるのが「問い」をもつことであると考えられる。問いを生み出す力、すなわち、問う力は、どの教科においても、主体的に学習を進めていく上で、大切な役割を果たすことになるのである。英語科でも、英語の授業を通して身につけたい力を生かし、生徒自らが考え、判断し、課題を解決することを期待する。そのために、英語科では、次のような点を意識しながら、生徒に『気づき』を促していきたい。

①『気づき』のもととなるレディネスづくり

レディネスとは、生徒全員が次の学習活動に無理なく入ることができ、所期の目的を達成できる状態を意味する（高橋一幸氏 2003）ものだが、その状態を生徒の内面に作り出す手だてとして、授業の始めに、トレーニングや反復練習、継続的な活動等を通して表現するための基礎・基本を培うことを目指している。例えば、コミュニケーション活動や自己表現につながる語彙・フレーズ等を耕すためのBINGO、学習事項の復習と文構造の定着を図ることをね

らいとしたDictation, 音読から自己表現へつなげることを目的としたReading Marathon, 人前で話すことに慣れさせるためのSpeechなどいずれもわずか5分程度の活動であるが, 毎時くりかえし継続することの効果は大きいと考える。

②『気づき』を促す学習課題の設定

生徒は英語の学習を始めてから, 日々さまざまな『気づき』を積み重ねていく。言語習得の過程において, 意識している, していないに関わらず, それは頻繁におこっているものだと思われる。しかし, 私たちは普段日本語を使って生活しているため, 学んだことを実際の場面に即した知識, 技能として定着させられるような環境がない。周囲がすべて英語を話す人たちであれば, コミュニケーションをくりかえしていくうちに, 生徒の英語の知識は自然と整理され, 使用場面に即したものと変化していくと思う。しかし, そのような環境がない以上, それに少しでも近づこう, 教師が生徒の『気づき』を促すような課題を設定していく必要がある。

また, そのような課題設定はくりかえしおこなわれる必要がある。そのくりかえしの中でさまざまな知識, 技能が頭の中に呼び起こされ, 表現において活用することのできる知識や技能となっていくものと考え。

③『気づき』を促すモデルの提示

英語科では, 様々な活動を仕組む際には必ず, 最終目標・最終の姿(ゴール)とそれに至る道筋を生徒に示すことにしている。

ゴールに至る道筋を示すのは, 現在学習していることが次の段階へどのようにつながっていくのかを生徒に理解させることで, 毎時のふりかえりを次回に生かすことが可能となり, 生徒が自分自身の学びを見取ることができるようにするためである。また, モデルを示されることにより, 生徒は最終の姿に対するイメージを持って活動に取り組むことが期待できる。

モデルとするのは教科書そのものであったり, 教科書をもとに教師がアレンジしたものであったりと, 活動内容や課題によって異なるが, 提示に際しては次の3点を配慮している。

- 教科書をベースに, 生徒の興味関心や知的好奇心を揺さぶるものであること。
- 学習したことを用いれば, 課題や活動をクリアできるということに気づかせ, 生徒自身が意欲を持って成果を実感しながら取り組めるものであること。
- モデルの中に自分を置き, 自身の経験や考え, 思いなどを表出できるものであること。

④『気づき』のふりかえり

学習における『気づき』は瞬間的なものであるため, 活動が終わると忘れてしまうおそれがある。忘れないにしても, 次に同じような場面に出会ったとき, 思い出されるまでに時間がかかることは予想できる。頭の中にあるものは, ある程度くりかえし思い出されていなければ, 出てこないものだと思う。そこで, 生徒が自分の『気づき』を何らかの形で記録しておくことが重要であると思う。

例えば, 初対面の相手に自己紹介をするとき, 早口では伝わらないので, 自分の名前をゆっくりはっきりと読むことが重要であると気づき, それを記録しておけば, 同じような活動の場面に出くわしたとき, それを生かして活動に取り組むことができる。

学習感想用紙, ふりかえりシートなどを活用して, 記録を取らせることは, 生徒自身が『気づき』をふりかえることのできる方法の1つであると思われる。しかし, 記録を毎時間取り続けることは現実には難しいため, ある単元に絞ったり, 何か活動をしたあとなどに限定したりして行っていきたい。記録用紙については1年間同じものを使うなどして, 何度も見返せるようにすることで, 生徒自身に『気づき』を生かす習慣がつくことも期待できる。また, 記録をとることが難しいときでも, 何に気づいたのかを問いかけるような教師の働きかけを積極的に行っていきたい。

3 これまでの研究経過と今後の研究の視点

研究を推進するにあたり, キーワードとなるのが『伝える力』である。

本校英語科が目指す『伝える力』とは,

身の丈にあった英語を用いて, 自分の言いたいこと, 考えや気持ち等を話したり, 書いたりするなどして伝えることができる力

である。本主題で研究をスタートさせてから最初の3年間は, 次表に示すように『伝える力』を生徒の実態に合わせ

て6つに分類し、それぞれの『伝える力』を高めることを目的とした活動・課題の開発に研究の主眼を置いた。それらは、以下のである。

- ① 聞き手に十分に伝わる声の大きさを音読したり、英語を話したりすることができる力
- ② スピードや抑揚、間などを大切に音読したり、話したりすることができる力
- ③ 伝えたい内容に見合った身振り・手振りや、事例・実物などの提示を交えて、聞き手を意識した効果的な発表をすることができる力
- ④ 教科書の基本本文や本文で使われている表現などをモデルとして、既習の学習事項や語句・語彙をできる限り用いて伝えたい内容を話したり書いたりすることができる力
- ⑤ 知っている語句や優しい表現を用いて説明したり、言い換えたりすることによって、聞き手や読み手の理解を助けることができる力
- ⑥ 文の配列や順序性を吟味して、伝えたい内容を話したり、書いたりすることができる力

しかし、分類したとおりに明確な線引きをすることは難しく、例えば、1年生の9月の実践は、①の「聞き手に十分に伝わる声の大きさを音読したり、英語を話したりすることができる力」を高めることを一番の目的としたのだが、実際のところは②の「スピードや抑揚、間などを大切に音読したり、話したりすることができる力」や③の「伝えたい内容に見合った身振り・手振りや、事例・実物などの提示を交えて、聞き手を意識した効果的な発表をすることができる力」も併せて伸長するのに効果的な活動となった。他の実践においても同様なことが見られ、ある『伝える力』が他のすべての『伝える力』のベースになっていたり、それぞれの『伝える力』が相互にかかわり合っていることを強く実感することとなった。

また、知識・技能面のレディネスを備えさせることと同様に、心理面（気持ちの面）での準備状態を生徒の内面に作り出し、表現活動に臨ませることも重要であると考え、“伝えることへのレディネスづくりを意識して”というサブテーマのもと研究を進めてきた。心理面のレディネスづくりは、学習過程にどんな仕掛けや工夫を施すかに因るところが大きいと考える。そこで、小さなハードルを一つ一つクリアさせ、自信と意欲を持って次の段階へ進むことができるような段階的指導を取り入れたり、お互いにアドバイスをし合い、最終ゴールに向けて今どういう状態にあるのか、またどのように改善していくことがより良いものへ近づけられるかを考えさせたり、練習段階において、上達していることを実感させたりするなど、活動（形態）を工夫した。そうしたことで、生徒は表現することへの安心感を持つことができ、発表の際の自信につながったと感じている。また、表現するための前段階として、「聞く」、「読む」などの活動によって「話す」あるいは「書く」ためのヒントとなるキーワードを引き出したり、イメージづくりをさせたりすることで、生徒の内面に心理的な部分でのレディネスを作り出すことができたとも感じている。

今後、これまでの研究で得られた成果を生かしながら、生徒の『伝える力』を伸ばすための取り組み（研究）をしていきたいと考えているが、今年度は『気づき』をテーマにかかげ、研究を進めていきたい。生徒が授業の中で既習の言語材料を使って自分の言いたいことを表現できることに気づき、そのような経験を何度もくりかえし、その過程を習得していくことこそが重要であると考えたからである。

生徒に『気づき』を促すために、教師がテーマや手順、教材を深く考え、今までの課題や活動を見つめ直したりすること、生徒自身に自分の活動をふりかえらせ、自分の内面における気づきを認識させることを研究の中心に位置づけたいと思う。教師だけではなく、生徒自らが、それを学ぶ意義や効果を実感することで、自ら考え、適する表現方法を判断し、自分の言葉で表現することの楽しさを実感することができるのではないかと考える。

4 研究仮説

知的好奇心を揺さぶり、思考・判断するような活動や課題を設定することで、生徒は既習の知識が、書いたり話したりする際の有効な方略となることに気づき、表現する力を高めることができるであろう。

5 研究内容

- (1) これまでの研究の成果を生かしながら、生徒に『気づき』を促す手だてや、活動、課題となるようなアイデアを出し合い、実践を通してその有効性を探る。
- (2) 活動（課題）のゴールに至るまでの指導計画や毎時の学習過程の工夫が、生徒の『気づき』にどのような効果を及ぼしたかを検証する。

6 本年度の研究内容

- 1・2・3学年, それぞれの段階に応じた“気づきを促す手だてや活動, 課題”を探る。
- 授業実践を通して, 成果と課題を明らかにする。

7 実践例

実践1 事前研究会より

(1) 単元名

What do you want to be? ～職場体験の依頼を英語で言ってみよう～
(NEW HORIZON English Course 2 Multi Plus 1 私の夢)

(2) 本授業の目標

- 不定詞を用いて職場体験依頼の文章を英語で書くことができる
- 職場体験依頼の文章を暗記して英語で話すことができる

(3) 展開例

procedure (Time)	Student's Activity	Teacher's Activity & Help	Remarks
Greeting (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつを交わす。 ・日にち, 曜日, 天気の話英語でする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつをする。 ・英語で日常事象を質問する 	
Basic Skill Training(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の順番が回ってきた生徒(4ペア)が前で自分たちの作ったスキットを発表する。 ・聞いていた生徒はどんな内容だったか挙手して日本語を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に対してコメントをしたり, 補助をしたりする。 ・生徒を当てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表から, 既習の英語で様々な依頼ができることに気づくような言葉がけをする
Activity I (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいものを英語で発表する。 ・職場体験の依頼文を真似て英訳する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A: Hello. My name is Taro Fuzoku. We are learning about jobs at school now. And I want to be a ○○ to ○○○○. May I come to your work place and study with you? B: Sure. When? A: During summer vacation. B: All right. I'm going to call you the date. A: Thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢について英語で質問する。 ・職場体験の依頼の場面を思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の依頼文にある難しい日本語を, 簡単な日本語に直しながら思い出させる
Activity II (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・スキットを暗記に向けて練習する 1. 隣の人と読みあう。 2. 個人で暗記する。(時間は3分) 3. 依頼をしに行く。 4. 再び暗記時間。(2分) 5. 依頼をしに行く。 ・依頼内容が適切に相手に伝わったらOKカードをもらうことができる。何度も挑戦し, OKカードはできるだけ多くもらうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視をして暗記の援助をする。 ・時間を計って指示を出す。 ・暗記できたか確認する。 ・OKカードがもらえたか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣同士で練習する際, アドバイスやコメントを言うよう言葉がけをする・適切に相手に伝わるとは, 今回, 暗記とアイコンタクトくらいに留めておく
Consolidation & Greeting (13)	<ul style="list-style-type: none"> ・数名が前で発表をする。 ・教師のフィードバックを聞き, 自身の活動を振り返る。 ・英語であいさつを交わす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の生徒を当て, 前で発表させる。 ・活動の様子を振り返り, 成果と課題をフィードバックする。 ・英語であいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って訳せることに気づけたかどうかを書くよう言葉がけをする

実践2 中等教育研究会より

(1) 単元名

Let's introduce your favorite anime character !! ～日本のアニメのキャラクターを紹介しよう～
(NEW HORIZON English Course 1 Unit 6 グリーン家の人々)

(2) 本授業の目標

- 仲間との紹介文づくりを通して、目的に合った紹介文を考えることができる。
- 第三者や物を、三人称単数現在形を使って紹介することができる。

(3) 指導経過

時間	○ねらい・学習活動	単元の 評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・Unit6の学習目標や学習内容を理解する。 ○三人称単数現在形（肯定文）を用いた文の構造を理解する。 ・三人称単数という人称を理解する。 ・三人称単数現在形（肯定文）を用いた文の構造を知る。 ・三人称単数現在形に慣れるためのパターンプラクティス活動をする。 ◆動詞習得のためのワークシートを使用したペア学習 ◆動詞の三人称単数現在形に慣れるためのカードを用いたコミュニケーション活動 	エの①	後日ペーパーテスト
2	<ul style="list-style-type: none"> ○三人称単数現在形（肯定文）を用いた文の構造を理解する。 ・三人称単数現在形（肯定文）を用いた文の構造を理解する。 ・教科書本文を通して、三人称単数現在形（肯定文）を用いたLisaの紹介文を理解する。 ・教科書の本文以外のLisaのことについて、三人称単数現在形（肯定文）を用いて紹介する。 ◆教科書P51を使い、紹介文を作成する。（個人） ・絵を見て、文をつくる。 	ウの① イの①	後日ペーパーテスト 活動の観察
2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文以外のLisaのことについて、三人称単数現在形（肯定文）を用いて紹介する。 ◆教科書P51を使い、紹介文を作成する。（個人→グループ） ・個人でつくった文をグループ毎、取捨選択したり並べ替えたりする。 ◆作成した紹介文と工夫した点を発表する。 ・作成した紹介文と工夫した点を発表し合うことで『気づき』を促す。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ○三人称単数現在形（疑問文と応答）を用いた文の構造を理解する。 ・三人称単数現在形（疑問文と応答）を用いた文の構造を知る。 ・三人称単数現在形（疑問文と応答）に慣れるためのコミュニケーション活動をする。 ◆動詞の三人称単数現在形（疑問文と応答）に慣れるためのカードを用いたコミュニケーション活動 	エの①	後日ペーパーテスト
4	<ul style="list-style-type: none"> ○三人称単数現在形（疑問文と応答）を用いた文の構造を理解する。 ・三人称単数現在形（疑問文と応答）を用いた文の構造を理解する。 ・教科書本文を通して、三人称単数現在形（疑問文と応答）を用いた文を理解する。 ・第三者について三人称単数現在形（疑問文と応答）を用いて問答する。 ◆三人称単数現在形（疑問文と応答）習得のためのワークシートを使用したペア活動 	ウの① イの②	後日ペーパーテスト 活動の観察
5	<ul style="list-style-type: none"> ○三人称単数現在形（否定文）用いた文の構造を理解する。 ・三人称単数現在形（否定文）用いた文の構造を理解する。 ・教科書本文を通して、三人称単数現在形（否定文）を用いた文を理解する。 ・三人称単数現在形（否定文）を用いた紹介をする。 ◆動詞の三人称単数現在形（否定文）に慣れるためのカードを用いたコミュニケーション活動 	エの① ウの① イの①	後日ペーパーテスト 活動の観察
6	<ul style="list-style-type: none"> ○三人称単数現在形を用いた文構造（肯定文・疑問文・否定文）を理解する。 ・Unit6の文法事項のまとめをする。 ・教科書のListening問題をする。 	エの①	後日ペーパーテスト

	◆ビデオ教材を活用する。		
7	○他者についての紹介文のモデルを考える（本時） ・仲間との紹介文づくりを通して、目的に合った紹介文を考える。 ・第三者について、三人称単数現在形を用いて紹介する。 ◆動詞の三人称単数現在形を理解、確認するためのカードを用いたコミュニケーション活動 ◆目的に合った紹介文づくり（個→グループ）	イの① アの①	活動の観察
8	○三人称単数現在形を用いて紹介文を書く。 ・自分の好きな人や物について特徴をまとめる（枠組みづくり）。 ・自分の好きな人や物について紹介文を書く。	イの①	活動の観察
8.5	○三人称単数現在形を用いて紹介文を書く。 ・自分の好きな人や物について紹介文を書く。	イの①	活動の観察
9	○三人称単数現在形を用いた文で紹介する。 ・自分の書いた紹介文を発表するための練習をする。 ・自分の書いた紹介文を発表する。 ・友人の紹介文を聞く。	アの① イの② ウの①	活動の観察
後日	〈ペーパーテスト〉 ・様々な人称を扱った問題 ・三人称単数現在形を用いた紹介文を扱った問題	エの①	ペーパーテスト

(4) 展開例

procedure (Time)	Student's Activity	Teacher's Activity & Help	Remarks
Greeting(2)	・英語であいさつを交わす。 ・英語で日にち、曜日、天気等の会話をする。	・英語であいさつをする。 ・英語で日常事象を質問する	・元気に反応しているか。
Warm up(3)	○三人称単数現在形を使った文の間違い探し ・与えられた文の中の間違いを探す。 ・最後にやりとりした文をwork sheetに書く。	○三人称単数現在形を使った文の間違い探し ・文を与え、間違いをみつけさせる。 ・最後にやりとりした文をwork sheetに書かせる。	
Basic Skill Training (10)	○三人称単数現在形を使った文の運用練習 ・動詞の音読練習をする。 (teach/have/play/study/write/read/watch/practice/listen…) ・カードを使ってやりとりをする。 ・どんな文のやりとりをしたか発表する。	○三人称単数現在形を使った文の運用練習 ・動詞の音読練習をさせる。 ・三人称単数現在形の注意事項の復習とする。 ・カードを使ってやりとりをさせる。 ・どんな文のやりとりができたか確認する。	☆既習の英語で、様々な紹介ができることに気づくような言葉がけをする。
Activity (30)	○モデル文づくり「Peter先生に日本のアニメのキャラクターを教えてください！！」 ・与えられた情報を元に英作し、発表する。 ・作った英文をまとまりのある文章にする。(短冊を配り、並べ替えをさせる。) ・その英文を取捨選択し、目的に合った内容の紹介文を考える。(個人→グループ) ・考えた紹介文を発表をする。 ・理由や工夫点も述べる。(理由を	○モデル文づくり「Peter先生に日本のアニメのキャラクターを教えてください！！」 ・与えられた情報を元に英作文し、発表させる。 ・作った英文をまとまりのある文章にさせる。 ・その英文を取捨選択し、目的に合った内容の紹介文を考えさせる。 ・まとまりのある紹介文を書くために大切なことを確認する	☆前後の文や文章全体の流れに気づかせる。 ☆工夫した点や、仲間の発表

	メモする。)		を聞いて良かった点を言わせる。
Consolidation (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のフィードバックを聞き、各自学習のまとめシートに記入する ・次回の授業についてつかむ。 ・英語であいさつを交わす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子を振り返り成果と課題をフィードバックする。 ・次回の授業について伝える ・英語であいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の気づきが次時に活かされるような、投げかけを心がける

実践3 校内研究会（授業研究会）より

(1) 単元名

電話で用件を伝えよう

(NEW HORIZON English Course 3 Speaking Plus 4)

(2) 本授業の目標

- ペアワークを積極的に行い、間違いを恐れずに話す。
- 相手に伝言をたのむ。
- 電話の会話に用いる表現を理解し、状況に応じて適切に用いる。

(3) 指導経過

時間	○ねらい・学習活動	単元の 評価規準	評価方法
1	○電話の会話で用いる表現を理解する。 ・1, 2年生で学習した電話の表現を思い出す。 ・want [tell / ask] (人) to~?の意味と用法を理解する。 ・2年生で学んだモデル対話を確認する。	イー① エー①	活動観察
	○電話の会話を考え、練習する。 ・話したい相手がない場合の電話の会話がどのように変わるのかを考える。 ・ペアで練習し、全体で発表する。 ・ペアで作った対話文が適切かどうか振り返る。	アー① イー①・② ウー①	活動観察
2	○電話の会話をする。・設定された状況での電話の会話を発表する。	アー① イー①・② ウー①	パフォーマンス
	○電話の会話で用いる表現を復習する。 ・発表した電話の会話を文字に起こし、本単元で習った表現を確認する。	エー①・②	対話の復元

(4) 展開例

Procedure	Student's Activity	Teacher's Activity & Help	Remarks
Greeting (1分)	Hello, Mr. Takasugi. I'm fine, thank you. And you?	Hello, everyone. How are you this afternoon? I'm fine too, thank you.	
ActivityI (13分)	<p>【新出文法事項の確認：3分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話を読み、新出文法事項の意味・用法を確認する。 <p>【電話の会話（2年の復習）：10分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用件と場面設定を理解したら、ペアになって口頭で確認する。 ・発表者は電話をかける側になり、デモンストレーションする。 ・2年の教科書のコピーを見ながら、対 	<ul style="list-style-type: none"> ・want [tell / ask] (人) to~ の意味・用法について説明する。 ・対話で伝える用件、場面設定を説明し、どのような対話になるかペアで考え、口頭で確認するよう指示する。 ・発表者（2～3名）を指名する。 ・電話を受ける側になり、デモンストレーションする。 ・2年の教科書をコピーしたもの 	<p>教師ー①</p> <p>教師ー① みとりー①</p> <p>参考資料</p>

	<p>話の流れや電話の表現を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル文を読んで練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ① リピート（教師→生徒） ② ①の練習をLook upで ③ 全体練習1（役を替えて2回） 	<p>を配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話の表現をピックアップし、説明する。 モデル文を読んで練習させる。 	
Activity II (34分)	<p>【課題の提示：2分】</p> <p>用件を伝えたい相手がない場合どうするか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題を提示する 	ワークシート
	<p>【対話文検討・対話練習：15分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣の人とペアになり、対話の流れを考える。 考えた対話の流れを記録する。 考えた対話文を練習する。 <p>【対話発表・シェアリング：12分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指名されたペアは発表する。 他のペアの発表を聞き、自分たちの対話を見直す。 まとめたものを参考に対話文を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> どうするか、日本語で答えさせる。 活動の内容を説明する。 ＜内容＞ 家の人に伝言をたのむ。 ＜場面＞ ジャックと遊ぶことになっているが、時間と場所が決まっていなかった。 ＜用件＞ ヒロシの家に1時に行く。 隣の生徒とペアを作らせ、どのような対話になるのか考えさせる。 考えた対話の流れは記録させる。 対話文ができたらペアで練習させる。 机間巡視し、いくつかのペアに発表させる。 発表を参考にして、対話の流れを見直すよう指示する。 発表で出てきたさまざまな表現をまとめる。 	<p>教師－② みとり－①</p> <p>教師－③</p> <p>教師－③</p>
Consolidation & Greeting (2分)	<ul style="list-style-type: none"> 次回の活動について理解し、やっておくべきことを確認する。 ワークシートを提出する。 <p>Good bye, Mr. Takasugi. Thank you. You, too!</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次回の活動について説明する。 ワークシートを回収する。 <p>Good bye, everyone. Have a good day!</p>	

8 本年度の研究のまとめ

本校英語科ではこれまで、「『伝える力』を高める指導の工夫」というテーマで研究を続けてきた。昨年度は、研究のサブテーマに「伝えることへのレディネスづくりを意識して」を掲げ、課題に向かうために必要となる“心理面でのレディネス”と“知識・技能面のレディネス”の2つを生徒の内面にいかに形成していくかを研究の中心にし、『伝える力』をより豊かなものにしていこうと取り組んだ。

まず“心理面のレディネス”づくりに関して、場面設定や課題設定、「話す」「書く」「聞く」「読む」の4技能を総合的に活用した学習過程の工夫などは、より深く内容を理解し、自分の考えや思いを伝えることにつながったり、ペアやグループワークを取り入れ、仲間と交流をする場面を多く用いたことは、仲間の意見を知り、自分の考えや思いなど伝えたいことを、不安のないリラックスした状態でふくらませる良い機会となった。また、もう一つの研究の柱である“知識・技能面のレディネス”づくりとは、主に帯プログラムの活用である。帯プログラムとは、毎時の授業に設定し、トレーニングや反復練習、継続的な活動を通して表現するための基礎・基本を培うことを目指すものである。各学年の適切な時機に適切な帯プログラム活動を位置づけ、本校英語科が目指す『伝える力』の基礎・基本とな

るように、また、生徒にとっての“知識・技能面のレディネス”となるように、帯プログラム活動の年間計画を系統立てて整備するに至った。

このように、これまでの研究においても、課題に積極的に取り組む生徒たちの姿を見ることができ、英語に対する興味関心の高まりを感じるなど成果も得られたが、書くための準備（語彙、有効な表現、適切な文構造など）、発表に向けての準備（練習）、心の準備には時間が必要であった。それゆえ、十分な時間を教師が上手に確保し、「伝える場」が生かされ、英語を使う喜びを体感できる活動を授業者が仕組むことで、コミュニケーション能力の育成につなげたいと思ったのである。我々英語科の研究として、『伝える力』を高めたいという方向性は変わっていない。また、「レディネスづくり」「帯プログラム」「4技能のかかわり」などは全てが関係し合っていて、切り離せない取り組みでもある。これらは、授業をする上での根底に置き、今年度も引き続き取り組んでいる。しかし、広くて浅い研究になってしまわぬよう、柱を明確にして研究を深めていきたいと考えた。そこで今年度は、全体研究とのかかわりも含め、『気づき』に焦点を当てて研究を進めようと考え取り組んできた。

研究のスタートでは、我々の考える『気づき』を明確にしていくのに苦労した。それは今年度の研究（1年目）を終えようとする今でも、まだまだ深めていく必要のあることであるのだが…。しかし、事前研究会、中等教育研究会、校内研究会など、授業研究を重ねる中で、少しずつではあるが、『気づき』を促す手だて等を具体的にすることができるようになってきたと感じている。今年度は特に、「モデルの提示」について研究を深めることができた。検討すべき点は多々あるが、焦点を絞って研究を進めたことで見えてきた部分もあるので、来年度につなげていきたいと思う。

今まで、知的好奇心を揺さぶり、思考・判断するような活動や課題を設定することで、生徒は既習の知識を用い、書いたり話したりできることに気づき、表現しようとする姿を見せてくれた。これからも今年度の研究の成果を生かし、活動（課題）のゴールに至るまでの指導計画や毎時の学習過程の見直しをし、生徒に『気づき』を促す手だてや、活動、課題となるようなアイデアを出し合い、実践を重ね、その有効性を探っていきたいと思う。

9 参考文献等

- 「自己表現活動」を取り入れた英語授業 田中武夫・田中知聡 著（大修館書店） 2003
- すぐれた英語授業実践 樋口忠彦・緑川日出子・高橋一幸（大修館書店） 2007
- 山梨大学教育人間科学部附属中学校平成22年度研究紀要
- 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 外国語編」 平成20年9月